

# 炎症程度の相違が顆粒球吸着療法における酢酸セルロースビーズへの顆粒球吸着状況に与える影響に関する研究

## 1. 研究の対象

2018年1月～2019年4月に当院で潰瘍性大腸炎に対し、顆粒球吸着療法を受けた方

## 2. 研究目的・方法

潰瘍性大腸炎は再燃と寛解を繰り返す原因不明の炎症性腸疾患として、国の難病指定を受けています。その治療法は、ステロイド、免疫抑制剤などの内科的治療に加え、日本では2000年より血球成分除去療法が保険認可されました。

血球成分除去療法の一つに顆粒球吸着療法があります。顆粒球吸着療法は、直径2mmの酢酸セルロースビーズ（ビーズ）が充填されたカラムを用いた体外循環治療であり、血液がカラム内を環流することで活性化された顆粒球・単球が選択的に吸着するとされていますが、炎症の程度による白血球の活動性の違いがビーズへの血球付着に影響を与えるか詳細に検討した報告は少ない現状です。

そこで、顆粒球吸着療法施行後のアダカラムのビーズ採取し、走査電子顕微鏡にて血球付着を中心に観察し、顆粒球吸着療法前の炎症反応が低い患者と高い患者さん、および治療過程における血球付着状況の変化を検討することで、病態に応じたより最適な処理量および施行計画の見直しにつなげることを目的としています。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、血液検査結果、重症度スコア、内視鏡スコア、ステロイド治療の治療歴など

試料：治療使用後カラムのビーズ

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

研究責任者：済生会熊本病院 臨床工学部門 奥野 敏行

熊本市南区近見5丁目3番1号

096-351-8000（代表）

以上